



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生きて生きるイメージで名付けました。

平成28年度 第2回授業改善研修会を実施しました Part3

中学校国語 【講師：文部科学省 学力調査官・教育課程調査官 黒田 諭】

「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業づくり」

★ 調査問題作成の枠組み ★ 中学校 ★

- 「知識」の問題の枠組み
「知識」の問題は、各設問の趣旨が学習指導要領の一つの指導事項に対応することを基本としている。
- 「活用」の問題の枠組み
「活用」の問題は、学習指導要領に示された言語活動例などを参考に、実生活の具体的な場面や生徒が授業などで実際に行っている言語活動を想定したものにすることを基本としている。

★ 結果の分析を基にした授業改善 ★



H27 金沢市	日々の授業で行う取組	授業以外で行う取組
4月	<ul style="list-style-type: none"> 【日々の授業で行う取組】 ・全職員でノート指導内容の確認 【検証】 ・授業力向上の自己評価表 	<ul style="list-style-type: none"> 【学力調査分析】 ・全職員で国・県の学力調査問題を解き、分析 ・問題の解説や答え合わせ等を実施 【朝学習】 ・過去の県、国の調査問題の活用（～7月）
5月	年間指導計画に調査問題の分析や活用を位置付ける	
6月		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に学習した漢字・計算の定着状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> 【学力調査分析】 ・学力調査を分析し、改善策を決定
8月	<ul style="list-style-type: none"> 【検証・改善】 ・校内研修でノート指導内容の確認 ・授業力向上の自己評価表で学校全体の傾向を分析し2学期に向けて改善策の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 【学力調査分析】 ・全職員で分析結果の共通理解
9月	<ul style="list-style-type: none"> 【日々の授業で行う取組】 ・学力調査で課題となった問題への取組 	<ul style="list-style-type: none"> 【朝学習】 ・過去の県、国の調査問題の自校の課題が見られた問題の活用（～12月）

「生徒質問紙」では、「(7) 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ですか」という質問で、「得意である」「どちらかといえば得意である」と回答した生徒の割合が全国を下回っている。

これらの結果からも、生徒たちは、情報を収集する力については、十分なものを有しているが、それを自分の意見の根拠として活用する力が育っていないことが伺える。そこで、「主体的に情報を集め活用する能力」を育成することにより、生徒が意図をもって文章を読み、人に伝える力の育成を図ることが可能となり、結果的に学習意欲の向上を図っていきたい。さらに自分の意見を筋道立てて述べる学習活動を積極的に取り入れることによって、質問紙調査の結果を学習指導案に記す

学力の状況を細かく把握し、授業改善に役立てるために、「解答類型」という手法で採点・分析 → 目の前の子どもたちの誤答の状況を詳しく分析することが、次の授業のスタートになる。

★ 言語活動の更なる充実に向けて ★

- 生徒が主体的に考える場面がある
- 考えたことを表現・交流する場面がある
 - ◇ 課題解決のために、生徒が試行錯誤することが許容されているか
→ 教師の準備したマニュアルどおりに進める活動では試行錯誤が少なく、実生活で生きて働く言葉の力が育ちにくい
 - ◇ 実生活とのつながりを意識した言語活動になっているか
→ 授業で取り組む言語活動の背景に、実際の日常生活や社会生活が感じられることが重要
- 例えば、授業づくりの過程で以下を再確認する
 - ① 想起させる（今までどのような力を付けてきたのか）
 - ② 今まで付けてきた力の何を使えば、本単元の課題を解決できるのかを、まず生徒自身に考えさせ、判断させる。適宜、手引き等を配付
 - ③ 課題の解決に向けて、言葉を駆使して表現させる
- 付けたい力と評価基準・評価方法との整合性
- 授業時数と評価する項目数のバランス

受講者アンケートより

- ・分析結果を授業に活かすことができているので、各教科で取り組もうと思いました。
- ・正答率に着目しがちですが、誤答への反応率に注目し、「なぜ、間違ったのか」を分析し、それを克服する手立てを考えることが大切だと思いました。
- ・全国学力・学習状況調査は数年後の学力アップ、国語力の向上をも目指していることがわかり、今後の取り組みせ方や活用方法の工夫についてよくわかりました。

H27 埼玉県 中学校

平成 28 年度学校支援地域本部推進事業【地域とともにある学校づくり】

大学生や教員経験者、地域住民等の参画により、学校の教育活動を支援する仕組みをつくり、授業の補助や放課後の学習支援など、子どもたちの学力向上に取り組む市町を支援しています。また、家庭の事情により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分身に付いていなかったりする児童生徒を対象とした「**地域未来塾**」による学習支援を推進しています。

補充学習「地域未来塾」

熊野市教育委員会

～ 子どもたちの学習に対する意欲の喚起と学力向上をめざして ～

- 小学校 4 年生から 6 年生が対象 (のべ 231 人が参加！)
- 長期休業中 (夏休み & 冬休み) に実施！
- 県教育委員会作成のワークシートを使って、**授業に近い形で学習をサポート！**

2 日間で 1 セット → 夏休み 8 セット + 冬休み 2 セット
1 日 2 時間 (午前 9:30～11:30)

まずは個人で 15 分取り組む → 講師が 20 分指導

- 帰省した教員志望の大学生等が講師

指導のポイントについてレクチャー

- 教員志望であるため意識が高く、講習を重ねるごとに指導力をつけている。
- 年齢が近いという利点を生かした指導が、児童の意欲を引き出している。
- 児童と触れ合える体験を大切にしている。



参加児童の感想より

- 学校で分からなかったところも、分かるようになった。
- ふだんは聞けない**他校の人の意見**を聞いた。
- 説明が分かりやすく、**分かるまで教えてくれてうれしかった。**

成果

- ◆ 子どもたちが学習に対して前向きに取り組むきっかけづくりとなるとともに、**自主的な学び**を深めることができた。
- ◆ 地域コーディネーター (元校長) が**進度に合わせた教材づくり**や講師への指導等で大きな力を発揮！



「地域子ども教室」・「中部子ども教室」 (三重平中学校区) (中部中学校区)

四日市市教育委員会

～ 学習習慣の定着および学習意欲の向上をめざして ～

- 中学生 (放課後、夏休み、冬休み)
- 小学生 (夏休み、冬休み)
- 児童生徒自身が学習内容を決める

スタッフが質に
応じながら指導・支援

安心して学習できる、**自分のペースで学習**に取り組める

生徒の感想より

- 勉強時間が増えた。
- 分からなかったことが**分かるようになった。**
- 苦手な教科や学校では聞けなかった問題も丁寧に教えてもらえた。

「笹川子ども教室」 (西笹川中学校区)

「学習の場」であるとともに「居場所」としての役割も！！

～ 日本語学習支援や多文化共生の取組 + 学習支援 ～

- 子ども学習会
 - ・月曜日 18:00～20:00 : 中学生対象
 - ・水曜日 14:30～16:30 : 小学生対象
 - ・土曜日 9:30～11:30 : 小・中学生合同

子ども 1～2 名に対し、
地域の学習支援スタッフ 1 名が指導
～ **細やかな支援** ～

- 自主学習会
 - ・月、金曜日 15:00～17:00 : 小学生対象

学習支援スタッフ 4 名程度で指導
～ **学習の場の提供** ～

スタッフは

- 同じ生徒の支援をする
 - 学習内容をカルテに記録する
- 生徒の実態に応じた教材を選んで指導！

- 学校で、問題にすぐに答えられるようになった。
- 子ども教室で**復習が学校で勉強するとき**に役に立つ。

◆ **成果** 子ども教室での学びが習慣化し、
家庭学習が定着してきている。

「放課後サポートスクール」 & 「サマー・ウインタースクール」

紀宝町教育委員会

～ 子どもたちの自ら学ぶ習慣を育み、学習に対する意欲の喚起と学力の向上を図る ～

放課後サポートスクール

- 町内小学校 5 校の全児童が対象 (希望者)
- 小学校の空き教室を会場
- 授業日の放課後、週 2 回各 2 時間程度、学習会を実施

講師より

- 6 年生が集中して積極的に課題に取り組む姿が**他学年**によい見本となっていた。
- 課題を持ち寄って熱心に取り組んでいる。低学年の子が高学年の子に質問して教えてもらう姿が見られた。



【学習内容】

- 宿題や既習事項の復習が中心
- 「自学ノート」
- 教科書やドリルの復習
- 持参した学習教材に取り組む

基礎基本学習を中心とし、自分のやってみたい学習を、自分にあったペースで学習

+
ワークシートやプリントにもチャレンジ！

サマー・ウインタースクール

- 町内小学校 5 校の全児童が対象 (希望者)
- 校区の公民館等を会場
- サマースクール 夏季休業中 20 日間
- ウインタースクール 冬季休業中 5 日間
- 各 2 時間程度、学習会を実施

保護者より

- 毎日サマースクールに参加しているので、夏休み中の**生活のリズムも整った。**
- 「来年もサマースクールに参加させたい」と答えた保護者 **91%!**

◆ 講師 … 非常勤講師や退職教職員、地域住民

一人ひとりの学習状況を観察

児童の「**学びに向かう姿勢**」を育むよう、**学習をサポート**



平成 29 年 1 月 17 日 (火) 於：三重県人権センター 多目的ホール

市町等教育委員会事務局の職員や社会教育関係者（放課後子ども教室、子ども支援ネットワークの関係者等）、学校教育関係者（学校支援地域本部等の関係者等）合わせて 155 名が参加し、実践者の講演や県内の実践事例の交流を通して、取組の成果や課題、具体的な取組方策等について情報共有や情報交換を図りました。



講演 **「コミュニティ・スクールの可能性を追究する学校づくり
～学校・家庭・地域が連携・協働してできること、あんなこと、こんなこと～」**

講師 山口大学教職大学院教授/山口CSコンダクター 池田 廣司

学校と地域の連携・協働のマネジメント（しくみが機能するためのマネジメント）

1

学校・家庭・地域が課題を共有し、ビジョンの明確化を図る
(ベクトルを合わせる)

- ・チームで学校の課題解決を図る
- ・キャリア教育（志を育てる教育）を柱にしたビジョンの作成

2

教職員の意識改革を図る

- ・「学校」「組織」「授業」を一体的に開く取組
- ・日々の教育実践とビジョンをつなげる取組

3

学校運営協議会の充実が鍵

- ・日常的な学校支援活動が学校運営協議会の動きに拍車をかける
- ・ブレインストーミングに基づき、目標・ビジョンを共有するために「熟議」を実施

4

学校が地域とつながるための方策

- ・育てたい子ども像の共有と子どもの育ちや学びを支援するしくみづくり
- ・地域住民に学校にきてもらうための手立て
- 特技をお持ちの地域の方々が子どもの育ちや学びにかかわる場づくりを（**Win-Win の関係**）
- ・学校を学びの場とするため「公開講座」を開講

5

「PTA」は学校にとって一番身近な支援者

- ・PTA・地域住民、教職員・児童生徒がともに汗をかき学びの環境づくりを
- ・子どもが卒業した後も学校にかかわることのできるしくみづくり
- ・CSの分掌組織に教職員・PTAが参画

成果と今後の展望

成功体験をみんなで共有。
コミュニティ・スクールのよさの見える化

- ◆ 学校運営協議会の成長が、子どもの成長につながる大切なことは、教職員も参画して「熟議」が行われ、その学校ならではの「オーダーメイド」で、子どもにとってプラスになることを一緒に企画・実施する。「協働」
- ◆ 「まず、やってみる」という前向きな気持ちが大切である。学校関係者評価やアンケートから子どもたちの姿をたよりなどで発信保健室の来室状況などから、学校の安定化を共有



「いい学校」は「いい地域」にできる。「いい学校」をみんなで一緒につくろうというネットワーク活動でともに「汗をかく」ことで「いい地域」ができる。

実践発表



実践発表 1 「子どもが かがやく学校」
四日市市立中部西小学校区学校参画委員会
・保護者や地域の人が企画・計画・準備から参画した授業の実施やティーチャー・学び手として授業に参加した実践

実践発表 2 「いつまでも住み続けたいまちへ 子育てをしたくなるまちへ」
一般社団法人 青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会
・地域と学校が連携・協働して子どもたちの成長を支えていく活動

平成 28 年度 ネット DE 研修 新規公開講座のご案内



- ● カテゴリ ● ● 教育一般
- ● 講座名 ● ● コミュニティ・スクールの可能性を追究する
～ 授業を開く：「人材育成ユニット研修」の取組～
- ● 講師 ● ● 山口大学教職大学院教授
山口CSコンダクター 池田 廣司

Let's Click!!



● ● ねらい ● ●
コミュニティ・スクールの機能を生かし、地域に授業を開くことで、「校内研修の活性化」と「人材育成」につながる研修システムを構築した山口県萩市の取組から、コミュニティ・スクールの可能性について研修します。

きめ細かな密度の濃い支援をめざして

北勢教育支援事務所の取組

北勢教育支援事務所は、木曾岬町・東員町・菰野町・朝日町・川越町の全小中学校22校への支援を担当しています。学校長から学校の状況を聞き取り、課題を共有しながらオーダーメイドの支援を進めています。きめ細かく密度の濃い支援を目指して各町教育委員会と連携を図り、地域全体の学力向上に向け取り組んでいます。

オーダーメイドの学力向上支援

各学校の課題や要請に応じて、「学力向上支援プラン」を作成しています。

● 授業研究における指導・助言

- ・ 学期1回程度の「**全体研修会**」
- ・ 学年単位で行う「**学年研修会**」
- ・ 全教員が各自年1回以上行う「**個人研修**」
- ・ 経験年数の少ない**若手教員の研修** など



* 参観した授業の様子 *

- ・ 多くの学校で主体的・対話的な学びを目指してのペア・グループ活動が組織されている。
- ・ 子どもの視点に立った、わかりやすい教具、板書等の工夫が見られる。
- ・ 子どもの思考が十分に深まらず、先生がまとめる場面も見られる。
- ・ KJ法による事後検討会など授業改善を深めるための工夫が見られる。

* 指導・助言の例 *

- ・ 子どもが考えを広げ、わからないことを聞き合う場の設定。
- ・ 見通しを持てるめあての提示とめあてと正対した振り返り。
- ・ 「なぜ?」「どう考える?」など、思考を促し、考えたくなる課題・発問の工夫。
- ・ 子どもが考えをまとめたり表現したりする場の設定。



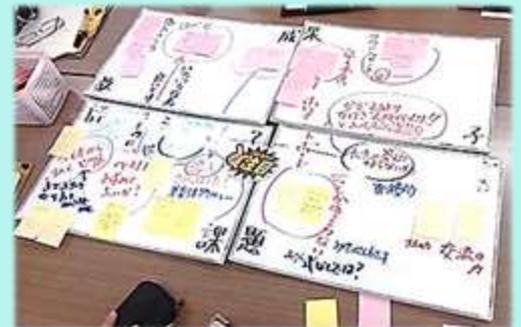
● 夏季休業中の校内研修会での指導・助言

- ・ 全国学力・学習状況調査問題や**結果の分析を踏まえた**研修会
- ・ **外国人児童生徒教育**に視点をあてた研修会

先生方の声



子どもたちのつまずきをもとに、授業改善のポイントや効果的な取組などについて、具体的な助言をいただきました。



● その他の研修会等での指導・助言

- ・ 町内教頭会における道徳教育の研修会
- ・ 中学校区や校内のコミュニティ・スクールの研修会
- ・ 幼稚園の研修会
- ・ 校内研修体制に対する助言

アクティブ・ラーニングの“3つの学び”を大切にして保育をしていきたいと思えます。

先生方の声



今後の課題

- ・ 国語や算数・数学以外の教科における授業研究の活性化
- ・ 5町をまたぐ研修会等による効果的な指導方法の交流 など

北勢5町との連携強化

● 北勢5町指導主事等意見交換会の開催（8月）

→ 今後も年に数回定期的に開催予定

- ・ 指導要領改訂や全国学調に係る国・県の動向等を情報提供
- ・ 各町・各学校の取組状況、成果・課題等について情報交換
- ・ 各町教委と教育支援事務所の連携の在り方等について協議

● 来年度の当支援事務所の取組について、要望の聞き取り（12月）

- ・ 4～12月までの各校への支援状況の報告と今後の支援について協議
(県の課題となっている中学校国語の改善に向けた研修会の実施等について提案)

